

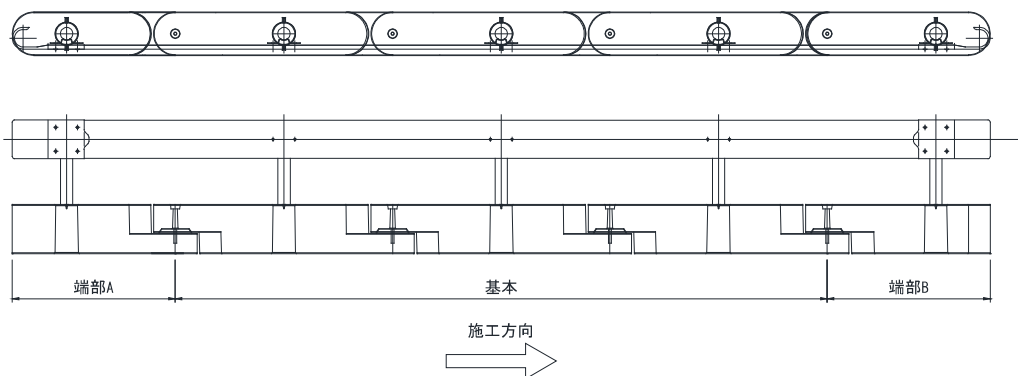


設計・仕様



防護柵は「防護柵の設置基準・同解説」及び「車両用防護柵標準仕様・同解説」に基づき安全を照査し設置されます。自在R連続基礎は現場状況を考慮し、衝突時の安全を確保できることを照査したうえで使用いただきます。

製品構成



自在R連続基礎は端部A・基本・端部Bにて構成されており、基本を必要設置延長に応じて必要数設置することで延長調整を行います。



動画でよりわかりやすく！

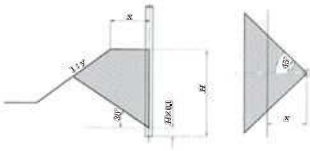
自在Rの施工方法 —基本編—



たわみ性防護柵における設計手法

①背面土質量の評価

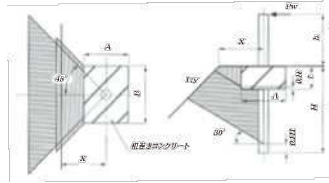
防護柵の各仕様によって定められた、支柱1本が関与する背面土質量の評価を行う



・土中式建込防護柵

②コンクリート根巻構造による対応策

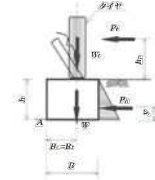
①で算出された背面土質量が基準より下回る場合には、不足する重量を「根巻コンクリート」にて補う



・自在R連続基礎（S型・A型・B型）

③連続基礎の設計

②で算出された根巻コンクリートの形状寸法が施工性に影響するような形状の場合、連続基礎などの対策を行う



・自在R連続基礎（全規格）

防護柵種別

設置条件における自在R連続基礎各対応規格

道路の区分	設計速度	一般区間				重大な被害が発生するおそれのある区間				新幹線などと交差または近接する区間			
		種別	設置条件			種別	設置条件			種別	設置条件		
			埋設	置式	路肩		埋設	置式	路肩		埋設	置式	路肩
高速自動車国道	80km/h以上	A, Am	S型 A型	A型	R S S型 A型	SB, SBm	—	H型	—	SA	—	—	—
自動車専用道	60km/h以下					SC	S型 A型	H型 A型	R S S型 A型				
						SCm	—	H型					
その他の道路	60km/h以上	B, Bm, Bp	S型 A型 B型 交差点用	A型 B型	R S S型 A型	A, Am, Ap	S型 A型	A型	R S S型 A型	SB	—	H型	—
	50km/h以下												

設置現場の防護柵種別に応じた基礎規格を選定することで安全を確保することが可能です

※黄色マスの条件は高力ボルトを使用することで対応可能です